



新規患者数

<項目解説>

新規患者の診療数を示す指標です。初診患者数（初診料算定）ではなく、新たな患者番号（ID）を取得したものに限りです。

診療録の保存期間（最終診療日から5年）を経過した後に受診し、以前のIDで診療録を再作成する場合は除きます。

より多くの患者さまに医療を提供していることを証明する指標です。

<当院の実績>

【平成25年度】	9,050人
【平成26年度】	8,606人
【平成27年度】	9,119人
【平成28年度】	8,369人
【平成29年度】	8,665人

<当院の自己点検評価>

当院は広大な十勝圏域の地方・地域センター病院として、地域医療、高度専門医療、救急医療などを積極的に行っております。

今後も引き続き、地域の方々から「最も信頼され選ばれる病院」を目指してまいります。

<定義>

- ・当該年度に新たに患者番号（ID）を取得し、診療録を作成した患者数

<算式>

実数



在院日数の指標

<項目解説>

診断群分類（以下DPC）ごとの在院日数を視点として、病院として効率よく診療していることを評価します。

そもそも、医療機関によって患者の構成は異なるため、患者構成を加味しない平均在院日数の比較は意味がありません。DPC/PDPSの導入により、傷病名と治療行為ごとに患者が分類され、それぞれの全国平均在院日数も公表されています。この公表データによって、同じDPCでも自院の在院日数が全国平均よりも長いのか短いのか判断できます。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すものです。数値は1.0が全国平均となり、1.0よりも大きい方が、在院日数が短く効率よく診療していることを示します。

<当院の実績>

【平成24年度】	0.90
【平成25年度】	0.90
【平成26年度】	0.88
【平成27年度】	0.95
【平成28年度】	0.95

<当院の自己点検評価>

当院は全国平均の1.0を下回っています。これは在院日数が全国と比較してやや長いことを意味します。在院日数が長いことは、十分な回復を待ってから退院していただいている反映でもあります。在院日数短縮により社会復帰を早めることが重要ですので、今後は全国平均の1.0を目指して、早期退院に向けた取り組みを病院全体で行っていきたいと考えています。

<定義>

- ・厚生労働省DPC評価分科会の公開データ

<算式>



患者構成の指標

<項目解説>

各病院の患者構成を視点とし、治療の難しい疾患（診断群分類点数表の入院期間Ⅱが長い）をより多く診療していることを評価します。

DPC/PDPSの入院期間Ⅱは全国平均の在院日数+1日ですが、入院期間Ⅱが長いほど退院までに日数を要し、一般には治療の難しい状態の疾患であると考えられます。例として、脳腫瘍や頭頸部腫瘍の化学療法、出生時体重1,500g以下の新生児等では入院期間が長くなります。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すもので、数値は1.0が全国平均となります。1.0よりも大きい方が、より難しい状態の疾患を多く見ていることを示します。

<当院の実績>

【平成24年度】	1.02
【平成25年度】	1.04
【平成26年度】	1.04
【平成27年度】	1.04
【平成28年度】	1.06

<当院の自己点検評価>

当院は全国平均の1.0を超えていることから、治療の難しい疾患をより多く診療していることがわかります。

今後も引き続き、十勝圏域の地方・地域センター病院として、安全で良質な医療を提供していきたいと考えております。

<定義>

- ・厚生労働省DPC評価分科会の公開データ

<算式>



病床利用率

<項目解説>

質の高い医療を継続的に提供するためには、経営基盤の安定が必要不可欠です。経営管理の視点から見ると、医師・看護師を始めとしたスタッフ、医療機器などがどの程度効率的に活用されているのかを知る必要があります。その中でも、病床利用率は経営に大きな影響を及ぼす重要な経営管理指標の一つです。

<当院の実績>

	一般病床	精神病床
【平成25年度】	87.6% (216,747/247,470)	84.9% (21,700/25,550)
【平成26年度】	85.6% (211,920/247,470)	72.1% (18,423/25,550)
【平成27年度】	83.7% (207,696/248,148)	58.5% (14,985/25,620)
【平成28年度】	84.2% (208,395/247,470)	50.7% (12,950/25,550)
【平成29年度】	85.3% (210,969/247,470)	50.4% (12,882/25,550)

<当院の自己点検評価>

当院では医師・看護部の協力のもと、現場の動きを監視しながら有効的な病床管理に努めています。また、院内クリティカルパスの活用により、適切な在院日数の指標を得ることが可能となっています。

今後も患者さまから選ばれる病院づくりを目指し、効率的な病床利用を実践していきます。

<定義>

- ・病床数に対する入院患者数の割合

<算式>

分子：年間入院患者数（日々の最終在院患者数の合計）

分母：許可病床年間延数（許可病床数×365日） ※平成23・27年度 366日